



ました。野外公演が、ものめずらしさで終わっては意味を持ちません。野外の方が良かったとの結果が出ないことには、先輩、師匠の人達が血のにじむ思いで今日を築いてこられた文楽にキズをつけてしまいます。

これは成功するんだ、これは新しい文楽の鑑賞をしていただくことができるんだ、との確信をもってやれるんだあれば、いろんな面で挑戦する意味があるとは思いますが、かえって逆効果になってはとの思いがあるため、慎重に考えていかなければいけないだろうと思っています。

中学生と文楽

中学生の文楽教室を見せていただきましたが、光市の島田中学校の皆さんの取り組んでおられる舞台を見て、純情さ素朴さを一番に感じました。その素直な姿が人形使いに表れています。

今はビデオの時代ですが、生の文楽の舞台を見ていただいた学生さんとは、同じ文楽を見ての感じは随分違いがあります。それだけに初めて鑑賞されるときに、生の舞台を見ていただきたい、その舞台からの生の息づか

いを聞き、そして伝統芸能にふれていただくことが理想的です。今回鑑賞いただいた中学生のマナーは素晴らしいと思いましたが、本会でも教室は開催します。自然の中で育った、のびのびとした素直さではないかと思えます。

長門と近松と文楽

文化ホールができることを聞き大変うれしく思っています。音楽や歌舞伎、能など伝統芸

能が定期的上演できれば、長門市が近松出生伝承とともに、大きくアピールできるチャンスを迎えることになると思います。私たちも定期的にご縁ができればうれしい限りです。文化ホールの建設を契機に、長門市と近松と文楽がさらに身近になるとともに、長門市の益々のご発展を心から念願しています。

「文楽」それは、わが国の伝統的な、世界に誇る高度な舞台芸術です。

もともとは劇場の名前でしたが、いつの間にか芸能そのものを指すようになり、現在では正式の呼称として使われています。

その特色は、音楽的な曲節をもって戲曲的な内容を物語る『浄瑠璃』と、それを演奏する絃楽器『三味線』と、そして、それにつれて演技する『人形』の三つの要素から成っており、それらが一つに融け合うところに洗練された特殊な舞台効果を発揮します。

